2026年度　第1年次入学　試験問題

（B日程）

国　　語

（注　　意）

1）　問題用紙は7ページ、解答用紙が2枚あります。

2）　氏名、フリガナ、受験番号を解答用紙の所定の欄にはっきり記入してください。

3）　解答用紙の解答欄は問1から問100まであるので、問題用紙と解答用紙の設問番号を一致させ、問題用紙の設問数だけ解答してください。
解答欄に余計なマークをすると無効となるので注意してください。

4）　試験時間は60分です。

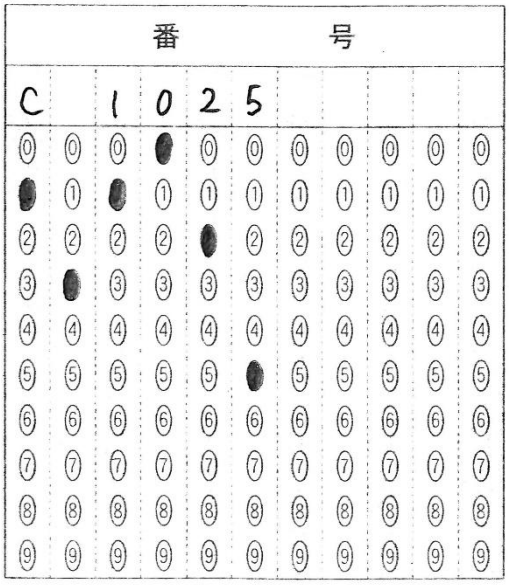
5）　終わりの合図があったら、問題用紙及び解答用紙を机上に置き、監督者の指示に従ってください。

【受験番号のマークの仕方】

下記を参考に、アルファベットを2桁の数字に変えてマークしてください。

A:11	B:12	C:13	D:14	E:15	F:16	G:17	H:18

例は、受験番号 **C1025** のマークの仕方です。左詰めで記入してください。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は［1］～［19］とします。

私が純粋に論理を頼りに考えるのではなく、歴史や現場に近づいていくのは一九八〇年代に入ってからのことである。ちょうど四〇歳を超えた頃であった。私は小売市場の歴史に没頭することになるが、その頃から小売市場や商店街の現場ともお付き合いをするようになった。現場に入っていった私は、それまでの㋐抽象的なマーケティングの理屈などすっかり忘れてしまったように、現場の動きに関心をもった。

現場は動いている。なぜそのように動くのか。そこには確かに「論理」があるように思えた。しかし、その論理はそれまでマーケティングを研究する中で見出していた論理とは違っていた。現場の論理である。私はそれを感覚的に受け止めていた。私の頭の中では［I］、「理論の論理」と「現場の論理」が二刀流の形で㋑併存していたに違いない。そのことをそれほど不思議とも思わなかった。

しかし、ある時、現場の商人からこんな質問を投げかけられた。「先生、小売市場ってそのうちなくなってしまうものなのですか」。こう㋐尋ねたのは小売市場の商人である。「えっ？　どうしてですか」と逆に問い返した。

この分野に馴染みのない方のために、少しだけ説明しておいたほうがいいかもしれない。「小売市場」は関西を中心に戦前から発達した小売業態で、生鮮食料品を中心とした最寄品（もよりひん）店が一つの建物の中に集合したものである。関東では比較的小さな小売市場が多かったが、大阪では五〇店舗を超えるほどの規模のものまであった。名古屋周辺では「しじょう」と呼ばれているが、それ以外ではほとんど「いちば」と呼ばれている。全盛期は一九五〇年代から六〇年代前半で、それ以降はスーパーが急成長する中で競合し、七〇年代以降、衰退の度を深めていった。そんな中での会話であった。

「先日、某先生が黒板にグラフを描かれて、『一〇年前にはこんなにあった小売市場が今はこのくらいまで減っている。このままでいくと、あと二〇年かそこらで小売市場はなくなる』と言うのです。すっと線を引かれたのです。理論的にはこうなるんだって。そう言われると、反論もできないし……」。

私は即座に否定した。「そんなことないですよ。誰ですか、そんなこと言ってるのは。このまま続いたらというだけの話でしょ。続くかどうかわからないじゃないですか」。この言葉を聞いて、①当の商人さんはやっとホッとしたような表情を㋑浮かべた。「そうですよね。われわれも努力するん

ですから」。

このとき、私は「理論」って何なんだろうと考えた。過去の傾向線をただ延ばしただけでそれが理論なのか。そんなはずはない。②人口が減少期に入った現在、何年か後には地球の人口が二人だけになってしまうなどというおもしろ話があるが、これが理論だなどとは誰も言わないだろう。それが理論なら、高度成長期、わが国の人口がずっと増加し続けていたときに、二〇五〇年には日本の人口が二億人になり、二一五〇年には三億人になるというのも理論だった、ということになるのだろうか。そんなおかしな話があるはずがない。

あるはずはないのに、㋐現にそれが③「理論的にはこうなる」と語られているのである。現場の人は「理論的に」とか「学問的に」という言葉に弱い。そう言われてしまうと、萎縮して何も言えなくなってしまうようだ。私たちなら「そんな、線を延ばしただけで、そんなの④理論でも何でもない」と即座に反応するけれど、それができない。⑤そのため、そんなメッセージを深刻に受け止め、そんなはずはないと思いつつも、不安に駆られてしまう。そんなものなのだということに改めて気づいた。

⑥そのとき、理論という言葉が「怖い」と思った。私たちは現場をそのまま認識したり、そのまま議論したりしているわけではない。現象はあまりにもでたらめである。だから現象に振り回されてはならない。その奥にある「　II　」を㋓見据え、それに沿って論理を組み立てる。現実は大事だが、現象を追いかけてはならない。そんなことを若い頃ずいぶんと聞かされた。理論への強いあこがれはその中で㋒養われていった。

理論は基本的には現実を解明するためにあるのだと信じていた。しかし、理論の世界には理論の世界のルールがあり、約束事がある。その約束事を守っている限り、理論は理論であることができる。理論が少々現実との対応を失っても、「いや、これは理論的に議論しているのだから……」と言えば、とりあえず納まるのを⑦目の当たりにしてきた。でも、そういうためには内的に一貫する論理が必要だ。それが理論の世界のルールなのだと考えていた。

しかし、誰もがそう思っているわけではなさそうだ。「理論」という言葉が高尚な雰囲気を㋑漂わせながら一人歩きしてしまう。私が理論を怖いと思ったのは、内的な論理を欠いたほとんど印象のようなものでさえ、「理論」という名称が与えられると、現場の人を驚かせ、心配させ、意欲を萎えさせることになってしまうのだ、というその事実であった。

石原武政　『「論理的」思考のすすめ　感覚に導かれる論理』　有斐閣　二〇〇七年十一月

問一　波線部ⓐⓑⓒⓓは漢字の訓読みですが、その同じ漢字の音読みが含まれている言葉を次から選んで、それぞれ番号で答えなさい。 1 ～ 4

1　ⓐ尋ねた　1　口頭によるシ問　2　販売員のホウ問　3　病院での問シン　4　容疑者へのジン問

2　ⓑ浮かべた　1　費用をフ担する　2　問題がフ上する　3　道をウ回する　4　ウ宙に進出する

3　ⓒ養われて　1　毛糸をヨウ毛で作る　2　日本は東ヨウにある　3　美術の素ヨウ　4　ヨウ画の鑑賞

4　ⓓ漂わせ　1　選挙の開ヒョウ　2　道路のヒョウ示　3　ヒョウ準的な価格　4　ヒョウ泊の旅

問二　点線部㋐㋑㋒㋓の読み方として最も適切なものを次から選んで、それぞれ番号で答えなさい。 5 ～ 8

5　㋐抽象　1　しゅうしょう　2　ちゅうしょう　3　ゆうしょう　4　ゆぞう

6　㋑併存　1　ひょうざい　2　ひょうぞん　3　へいざい　4　へいぞん

7　㋒現に　1　あきらかに　2　いまに　3　けんに　4　げんに

8　㋓見据え　1　みがまえ　2　みすえ　3　みとらえ　4　みばえ

問三　傍線部①「当の」とありますが、この言葉を二字熟語にした場合、最も適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。 9

1　適当の　2　当該の　3　当選の　4　当然の

問四　傍線部②「人口が減少期に入った現在、何年か後には地球の人口が二人だけになってしまうなどというおもしろ話」とありますが、本文中で、これと同じ予測の立て方をしているものはどれか、最も適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。 10

1　筆者「私」が純粋に論理を頼りに考えるのではなく、歴史や現場に近づいていくのは、一九八〇年代に入ってからで、四〇歳を超えた頃であった。

2　「小売市場」は戦前から発達した小売業態で、名古屋周辺では「しじょう」と呼ばれているが、それ以外ではほとんど「いちば」と呼ばれている。

3　一〇年前にはこれほど多く数があった小売市場が今はこのくらいまで減っていて、このままでいくと、あと二〇年かそこらで小売市場はなくなる。

4　高度成長期、わが国の人口がずっと増加し続けていたときに、一旦の減少期を経るものの、二〇五〇年には日本の人口が二億人になるといわれた。

問五　傍線部③「「理論的にはこうなる」と語られている」とありますが、この「理論的にはこうなる」という言葉は、本文中では初め、誰から誰に発言されたものですか。最も適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。 11

1　先日の某先生から、小売市場の商人さんに。

2　若い頃の「私」から、小売市場の商人さんに。

3　先日の某先生から、現場に入っていった「私」に。

4　若い頃の「私」から、現場に入っていった「私」に。

問六　傍線部④「理論でも何でもない」とありますが、本文中で筆者「私」は、何を欠いているから、「理論でも何でもない」と述べているといえますか。本文中から最も適切な語句二つをそれぞれどちらも九字で抜き出して答えなさい。 甲

□□□□□□□□□を守るための□□□□□□□□□

問七　傍線部⑤「そのため」とありますが、「そのため」が示すものとして、本文中で、最も適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。 12

1　筆者「私」は、現場とも付き合うようになったため、現場の論理を感覚的に受け止めていられた。

2　あるはずがないのだが、おかしな話であるため、「理論的にはこうなる」として語られている。

3　筆者ら「私たち」は、理論の論理を研究しているため、「線を延ばしただけ」と即座に反応できる。

4　現場の人は、「学問的に」と言われると反応できず萎縮してしまうため、深刻に受け止めてしまう。

問八　傍線部⑥「そのとき、理論という言葉が「怖い」と思った」とありますが、「そのとき」が示すものとして、本文中で、**当てはまらない**ものを次から選んで、番号で答えなさい。 13

1　過去の傾向線を延ばした理論も、市場の理論なのに、それが否定されてしまったとき。

2　現場の人でも、「理論的に」と言われると、弱くなってしまい何も言えなかったとき。

3　そんなはずはないと思いつつも、現場の人を不安にさせる、「理論的に」という言葉は、そんなものなのだと改めて気づいたとき。

4　「理論」という高尚な雰囲気のある言葉が一人歩きして、印象のようなものでさえ、現場の人の意欲を萎えさせてしまったとき。

問九　傍線部⑦「目の当たりにして」とありますが、「目の当たり」という言葉の説明として、最も適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。 14

1　「目」は、「め」と読み、「目の当たり」とは、ある事態に実際に遭遇するさまをいう。
2　「目」は、「ま」と読み、「目の当たり」とは、ある事態に実際に遭遇するさまをいう。
3　「目」は、「め」と読み、「目の当たり」とは、ある事態を近辺で伝聞するさまをいう。
4　「目」は、「ま」と読み、「目の当たり」とは、ある事態を近辺で伝聞するさまをいう。

問十　空欄 I に入る適切な表現を次から選んで、番号で答えなさい。 15

1　おそらく　2　決して　3　まさか　4　もしも

問十一　空欄 II には、「現象」の対義語（反対の意味の言葉）が入ります。適切な表現を次から選んで、番号で答えなさい。 16

1　異質　2　人質　3　特質　4　本質

問十二　二重傍線部「なさそうだ」のうち、「な」の品詞名として、適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。また、文法的に、正しい使い方（○）と誤った使い方（×）との組み合わせとして、最も適切なものを次から選んで、番号で答えなさい。

17

18

〔品詞名〕　1　動詞　2　形容詞　3　形容動詞　4　助動詞

〔使い方〕　ア　明日は寒くなさそうだ　イ　あの服は買えなさそうだ　ウ　課題はなさそうだ　エ　雪は降らなさそうだ

1　ア＝○　イ＝×　ウ＝○　エ＝×

2　ア＝○　イ＝○　ウ＝×　エ＝×

3　ア＝×　イ＝○　ウ＝×　エ＝○

4　ア＝×　イ＝×　ウ＝○　エ＝○

問十三　本文では、「理論」が取り上げられていますが、日本近代初期の文学理論書である『小説神髄』を著した坪内逍遥が理論の実践として著した作品を次から選んで、番号で答えなさい。

19

1　浮雲　2　金色夜叉　3　当世書生気質　4　墨汁一滴

問十四　本文中で筆者は、それまでの「理論」の研究から、そことは違う「現場」に入っていき、その世界で現場の人のために、持っている論理力を用いています。このことを踏まえて本学の建学の精神と関連付けて、今後、あなたの持っている力や考えを本学のどのような場面で用いたいか、具体例を挙げながら、四百字程度の文章にして別紙に書きなさい。なお、文体は「だ・である」体（「です・ます」を使用しない文体）とし、適宜段落を設けること。

乙